

台湾における日本のポピュラーカルチャーへの関心の形成過程

—宝塚歌劇の観客を事例にして—

東 園子（大阪大学）

目的

現代ではグローバル化の進展によって、音楽・テレビドラマ・漫画・アニメといったポピュラーカルチャーが国境を越えて楽しめることがますます盛んになっている。その中で、特定の海外のポピュラーカルチャーへの関心はどのように形成されるのだろうか。本報告は、宝塚歌劇の台湾公演を観劇した現地の観客の事例を元に、この問題について考察するものである。宝塚歌劇は 2013 年 4 月に初めて台湾で公演を行い、多くの現地の観客を集めた。台湾では日本のテレビ番組や漫画などが日常的に親しまれているが、劇場での公演を主体とし、海外への情報発信を積極的に行っているわけではない宝塚歌劇は、日本のポピュラーカルチャーの中でも台湾の人たちにとって馴染みのないものだったであろう。その宝塚歌劇に対して決して安くはない観劇料を払ってチケットを購入し劇場に赴くことは、かなり能動的な行為だといえる。台湾の人たちのそのような行為を後押しした宝塚歌劇への関心がいかに形作られたのかを分析することを通して、台湾における日本のポピュラーカルチャーに対する関心の形成過程の一端を明らかにするのが、本報告の目的である。

方法

本報告の元になるのは、2013 年の 4 月と 6 月に台湾で行ったインタビュー調査の結果である。調査対象者は宝塚歌劇を観劇したことのある現地の女性 14 名で、本報告では演劇関係者でない 11 名のデータを用いる。いずれも大学生～20 代の若い人たちで、台湾公演以前から宝塚歌劇を愛好していた人とそうでない人の両方が含まれている。また、宝塚歌劇台湾公演の会場内外で行った参与観察の結果もあわせて用いる。

結果

インタビュー対象者が宝塚歌劇に関心を持った過程を分析すると、以前から宝塚歌劇以外の日本のポピュラーカルチャーや文化的商品を愛好していた、インターネットで宝塚歌劇の動画を目にしたことなどが大きく影響していた。また、家族など周囲に日本と関わりがあったり日本文化に関心の高い人がある人が多かった。もともと日本の文化に慣れ親しんでいたことが、宝塚歌劇への関心につながったと考えられる。

結論

現代ではインターネットやテレビなどのメディアを通して容易に海外の情報に触れられる状況がある。そのような情報環境が、外国のポピュラーカルチャーに関心を持つ下地になっている。ただ、メディア上にあふれるどの海外の情報に関心を持つかは、周囲の人の影響も受けている。

※本研究は 2014～2016 年度日本学術振興会科学研究費（若手研究（B））「東アジアで受容される日本の女性向けポピュラーカルチャーが示す男性像の実証的研究」（研究課題番号：26870349）の助成を受けている。